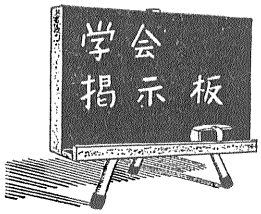
られる新しい水銀鉱体が発見され　また　七坑レベルにおける亀鉱体の下部延長部の発見があった由である．　このような朗報とか今回の探査の成果などを考え併せるとき　当鉱山の既知鉱床のいくつかはさらに水平　垂直方向に発展し　また　すでに黄春江教授などが指摘されたように　新しい衛星鉱床が発見されるなどの可能性は十分高いものと考えてよい．

終りにのぞみ　今回の探査に終始協力された　中国側技術者　関係者の労を多とするとともに　探査内容の発表を許可された中国政府経済鉱業研究版務組に謝意を表する．

（筆者らは燃料部・物理探査部・鉱床部・技術部）



・地学団体研究会
1. 昭和42年5月3日(水)～5日(金)
2. 地学団体研究会第21回総会
3. 東京教育大学G館（文京区大塚窪町24）
4. 地学団体研究会
5. 東京都豊島区南池袋2—32—12
地学団体研究会事務局
Tel. 東京（03）983—3378

・日本写真測量学会
1. 昭和42年5月20日(土)
2. 通常総会と年次講演会(研究発表会)
3. 東京大学生産技術研究所中央講堂（港区麻布新竜土町10）
4. 日本写真測量学会
5. 東京都港区麻布新竜土町10
東京大学生産技術研究所第5部　丸安研究室
Tel.（03）402—6211

・石油技術協会
1. 昭和42年5月24日(水)～27日(土)
2. 石油技術協会　第32回通常総会
3. 日本都市センターホール(千代田区平河町2—6)
4. 石油技術協会
5. 東京都千代田区大手町1—5
石油鉱業連盟内　Tel. 東京（03）279—5841

・日本鉱物学会
1. 昭和42年5月31日(水)～6月2日(金)
2. 日本鉱物学会年会および総会
3. 国立科学博物館(台東区上野公園)
4. 日本鉱物学会
5. 東京都台東区上野公園
国立科学博物館 地学研究部 地学第II研究室
Tel. 東京（03）822—6111（内線58）

・石膏石灰学会
1. 昭和42年6月2日(金)
2. 第18回総会および第35回学術講演会
3. 葛生会館(栃木県葛生町)
4. 石膏石灰学会
5. 東京都千代田区神田駿河台1—8
日本大学理工学部大学院内　石膏石灰学会
Tel. 東京（03）293—3251(内線359)

・日本分光学会
1. 昭和42年5月15日(月)—16日(火)
2. 通常総会・講演会・装置部会討論会
3. 東京教育大学光学研究所
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4—400
東京教育大学光学研究所内
日本分光学会
Tel. 京東（03）362—7881

・九学会連合
1. 昭和42年5月13日(土)～14日(日)
2. 第21回九学会連合大会
3. 東京大学理学部2号館講座
4.5. 東京都文京区本郷7—13—1
東京大学理学部地理学教室内
日本地理学会内　九学会連合

〔注〕1. 開催年月日　2. 会合名　3. 会場
4. 主催者　5. 連絡先（掲載順位は原稿到着順）

海外地質調査協力室の新設

安斉俊男

本年（昭和42年）4月1日付をもって　地質調査所に「海外地質調査協力室」という新しい組織が誕生しました．　これは調査所内で年々増加しつつある海外関係の業務をとりまとめて　よりよい成果をおさめられるようかねてからの所内外の要望が実現されたものです．

地質調査所は　その業務の性質上　海外との関係はもともと多く　諸外国の地質調査所・学会・大学などの学術上の交流　文献の交換などは古くから行なわれて来ましたが　昭和33年頃から　いわゆる技術協力が行なわれ

るようになって 開発途上国との間に専門家の派遣 研修生の受入れがはじまり　また日本がエカフェに加盟してからは　エカフェの事業のうちに地質関係業務が大きく取り上げられていることなどから　とくにアジア諸国との関係が年とともに密接になってきました.　昭和41年度についてみると　地質調査所から海外へ渡航したものは　エカフェ関係会議５名（３回）　国際学術会議２名（２回）　技術協力８名　その他技術協力関係15名に及び　また前年度から引き続いて海外に滞在中の７名があります.　また41年度中に研修生として中華民国から７名　韓国から２名　その他４名を受入れており　これらの数は年々増加の傾向がみられております.　42年度には渡航者40名以上　研修生30名以上が予定されています.

エカフェとの関係としては　かねてから水資源部会および産業天然資源部会の中の地質専門家会議　鉱物資源開発小委員会に参加していましたが　数年前からこの地質鉱物の会議を中心としてアジア地域の大陸棚における鉱物資源の探査を取り上げようという動きがあり　昭和40年バンコクで開かれた専門家による準備会議の勧告に基づき「アジア沿海鉱物資源共同探査調整委員会」がエカフェ内に設立されました（この間のいきさつについては地質ニュース137号にも書かれております).　この委員会は第１回会議を昭和41年５月マニラで　第２回会議を41年11月東京で開き　その間に日本から技術担当官をエカフェ事務局に派遣すること　日本で各国の技術者の研修を行なうことなどの要請がありました.　同じくエカフェの中の水資源部会では　かねてから日本で地下水開発の技術者の研修を行なってほしいとの強い要請があり　時を同じくして２種類の研修について地質調査所が要望を受けたわけです.　これらの研修は海外技術協力事業団の集団研修事業の一部として42年度から発足することとなり　各機関　大学等の専門家　地質調査所職員が講師にえらばれ「沿海鉱物資源」関係は５月８日　地下水関係は６月５日に開講することになりました.
研修にはエカフェ地域の多くの国からの研修生が20名前後　参加することになっています.

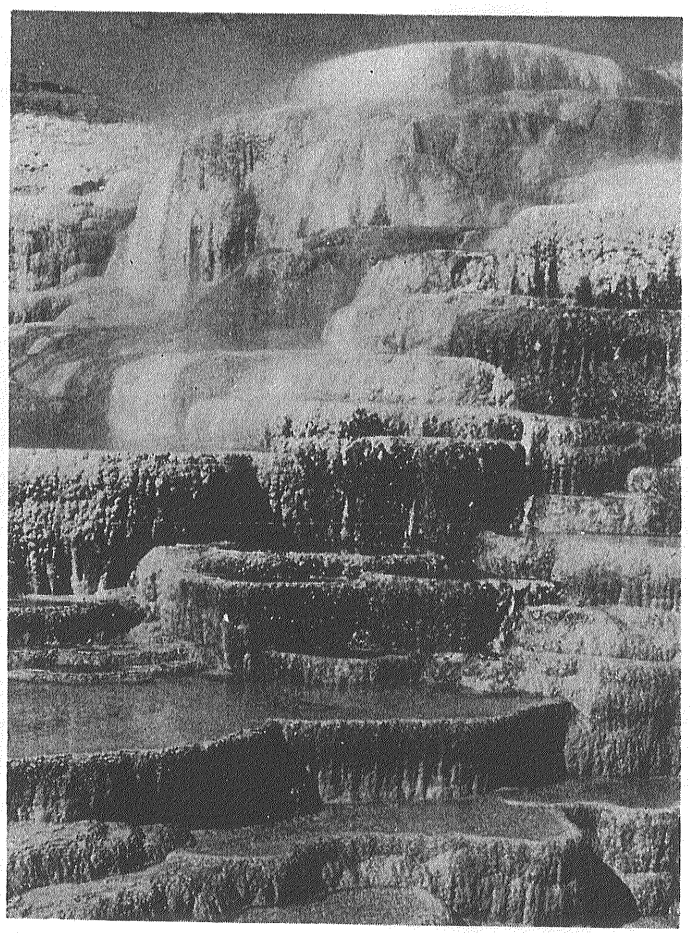
一方　地質調査所からはかなり多くの専門家が技術協力のため各国に派遣されておりましたが　これらはその都度　相手国の要請を受けて派遣されたもので　地質調査のように　長期にわたる調査研究を行なってこそ　よい成果をあげられるものにとっては　内容が不十分だと思われるものもありました.　そのためはっきりしたテーマを持ったそして時間的にも十分な協力事業が行なえることを希望していたわけですが　今回の「エカフェ沿海鉱物資源探査」の委員会設立に際し　研修とともに現地における調査研究や指導の協力もあわせて要望されたのを機会に　東南アジア地域の主として「沿海鉱物探査」を目的とする通産省としての協力事業を行なうことが決定を見ることになりました.

以上のようないきさつから地質調査所における海外関係の業務は　エカフェの沿海鉱物資源探査を中心としてかなりはっきりした目標と　量的にもかなり大きなものを擁することになり　これらをとりまとめる新組織の新設が認められることになった次第です.

集団研修にしても　また　アジア地域の資源調査にしても　地質調査所の組織をあげて長期的に海外事業にとりくむのは初めてのことであり　地質というものを通じて技術協力の一端をになうことが　はっきりした形で認められたといえることになりましょう.

さしあたってのわれわれの任務としては　５月以降12月までの約半年にわたる２つの集団研修をりっぱにはたして　エカフェ地域の諸国からの研修生の期待にこたえること　また　これと相対応して実施される韓国　台湾　フィリピンをふくむ地域の沿海探査にチームを派遣することです.　これらのしごとを通じて　アジアの先進国としての実力を十分発揮して開発途上国の発展に寄与し　あわせて　われわれの地質学上の調査研究を一歩日本の外部にまで進めることができることになれば　日本の地質学にとっても寄与することができると思われます.　また将来の計画としては　研修については「沿海探査」　「地下水」だけにとどまらず　要望があれば他の地質一般についてもまとまった研修を行なうことが効果的であると考えます.　また　調査研究の方も沿海探査のみに止まらず　より広範囲のものが実施できるようにしたいと思います.　地質に関係ある海外のしごとは　従来から鉱業関係　建設関係などの業界で　広く世界を相手に盛んに行なわれて来ましたが　地質調査所としては　やはり学術交流や技術協力を中心とした息の長いしごとを中心として進めて行くのが適当でしょう.
欧米先進諸国の地質調査所でもそのようなやり方で　広範囲な事業を進めております.　このような地道な交流・協力が　鉱業や建設業の海外進出にも寄与することはいうまでもないことと思います.

元来　日本人は外国語が苦手であるとか　いろいろの理由から　海外との交流は欧米諸国に比べて遅れておりましたが　このたび地質調査所内に「海外」の名の付いた組織が生まれたことは　海外との交流に積極的な姿勢を示したものであり　これを通じて今後ますます交流が盛んになり　学会　産業界　また国際親善に貢献できることを念願としております.　（筆者は海外地質調査協力室長）



第13回　所内　写真コンクール入選作「沈澱のいたずら」技術部　地球化学課　倉沢　一

沈澱のいたずら

イェロストーン国立公園（ワイオミング州）の北端に Mammoth Hot Springs という　温泉作用によって形成された巨大なテラス群がある．　そのなかで最も大きく美しいこの Minerva Spring は大きなハスの葉を重ねたような　みごとな造形美をあらわし　しばしわれを忘れさせてくれる．　このテラスは　石灰岩中を浸透し Ca をとりこんだ温泉水が地表に出て　冷却しながら CO_2 の放出を行なった結果　Ca CO_3 の沈澱を生じたものと考えられている．　鐘乳洞に見られる現象と同様である．

ローマ神話の知恵の女神（Minerva）になぞらえたこのテラスは　わずか10数年ででき上ったといわれ　今を盛りに輝やいている．　カラーでお見せできないのが残念．

地質調査所の出版物

・地質調査所月報　第18巻　第4号

報　　文

村上　篁：鹿児島県出水地区の水資源について

長浜春夫：川端層の古流向

平沢　清・伊藤公介：北海道石狩炭田音江山地域地震探査報告——原料炭田周辺の地震探査第2報——

概　　報

No. 150　42年2月号　ウランの項正誤表

	誤	正
P 2（分布図）	岐阜県東濃地区(‥御蕃‥)	岐阜県東濃地区(‥御嵩‥)
〃　〃	栃木県利根郡川場村	群馬県利根郡川場村
〃　左7行目	栃木県川場村	群馬県川場村
〃　左13行目	pleiocene	pliocene
〃　左15行目	栃木県川場村	群馬県川場村
P 3右8行目	土岐津と改称	土岐津を改称
〃　（第1図）	ときつ（駅名）	ときし
P 6左12行目	〔写真6〕	〔写真7〕
左16行目	〔写真7〕	〔写真8〕
左17行目	〔写真8〕	〔写真6〕
P 7　第2表	Equisetum sp.（トクー）	Equisetum sp.（トクサ）
〃　〃	Fagus nntipofi（ブナ）	Fagus antipofi（ブナ）
P10右7行目	便宜上	便宜上
P13左写真説明	右手の谷あい	左手の谷あい
P14右　〃	μR/γ	μR/h
P20右9行目	（中新期迸入）	（中新世前期？迸入）
P20右下から6行目	SUPVIW型	SUP 4W型

北海道濁川盆地付近の地質について（石田）

兵庫県北部のヘリウム資源について（稲井，宮村，牧）

日本およびその周辺の震源分布について（鈴木）

——1967年1月地質調査所研究発表会——

資　　料

世界地質図委員会の最近の活動（関根）

地質情報のコード化（矢部訳）

地質ニュース	第153号	5月号
	定価　¥220	〒12
昭和42年5月25日	発行	
編集	工業技術院　地質調査所	
発行人	林　久　雄	
発行所	株式会社　実業公報社 東京都千代田区九段南4の2の12 Tel.（261）7173・9387 振替口座　東京 32466	
総発売元	政府刊行物販売所 東京都千代田区大手町1の5 Tel.（211）5570	
印刷所	共同印刷株式会社	

© 1967 Geological Survey of Japan